



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

秋・新規イベント相次ぐ

「ふるさとの家」活用広がる

2 年目を迎えた再生協議会は、実りの秋を狙い打ちするように、各事業部会が新規事業を展開した。中でも大きなインパクトがあったのは、県住宅公社と連携した 2 度の音楽祭りで、ラディアンでの子供音楽祭では入場できない人が出るほど。一色小でも約 400 人が来場し、会場の体育館が満席になった。古民家活用部会も「ふるさとの家」を拠点に、ファブラボワークショップ、絵本の読み聞かせ会など年末までに 4 つのイベントを予定している。公園・散策路部会は、一色の文化遺産、晩秋の里山散策などこれまでになかった企画を具体化した。このほか、県公社部会も大小の地域盛り上げイベント、福祉部会も講演会、施設見学会を計画している。

これらのイベントはいずれも一色小学校区に焦点を当てており、地域に新しい風を吹き込んでいる。ただ、ファブラボワークショップや読み聞かせ会などのように、子供を対象にした企画は参加者の確保に苦戦しており、企画の内容や募集方法の工夫が求められている。部会ごとの主な取り組みは、以下の通り。

公園・散策路

＜緑が丘中央公園・花壇整備＞

11 月 18 日 (土)、公園・散策路部会の主催で改修工事を終えたばかりの花壇スペースに、パンジー、菜の花約 1,000 株を手植えした。同時に、2 本の藤の太株も植えこんだ。今にも小雨が降りそうな中、地元の公園愛護会、夢くらぶ、自治会、社協などのメンバー約 50 人がシャベル持参で集合。1 時間ほどで植え終えた。今後、手入れや維持管理などについても話し合う。



(裏面へ続く)

<晩秋の里山散策>

11月6日(月)、9時半に「ふるさとの家」に集合し、約5キロ歩いて午後2時過ぎに浄源寺で解散した。散策の案内役の橘川卓司さんからコース全般の説明を聞き、八坂神社―林の台―炭焼き広場―神明神社―富士ビュー広場―浄源寺のコースを廻った。参加者は20数名。昼食やトイレは炭焼き広場で。最後の浄源寺では平安時代のつくりといわれる阿弥陀三尊、屋根裏から発見された阿弥陀如来来迎図を見学し、住職の尺八演奏を聞く機会にも恵まれた。



里山散策の一行



横穴古墳の説明に聞き入る

<現場で学ぶ一色の文化遺産>

11月19日(日)、郷土史家の島崎直人先生による一色の代表的文化遺産の現地説明が行われた。9月にふるさとの家で開いた座学をもとに、現地見学をしようという企画。地元の歴史通を含め、25人が参加した。現地説明の中心は緑が丘古墳公園、神明神社、浄源寺の3カ所。

荒れ果てて訪れる人も少ない古墳公園では、もともとは33基もの横穴古墳があったこと、横穴式では神奈川でも有力な古墳の一つであることなどの説明があった。神明神社では鉄製器具類との関係、浄源寺では寺小屋の生徒たちが建てた筆子塚などの歴史史跡の話をついた。各参加者から質問が相次ぎ、解散予定時間がずれ込んでしまった。

古民家活用

<ファブラボワークショップ>

11月18日(土)、ふるさとの家で開催。参加者は子供が14名、大人が20名近く。前日から部会員と神奈川大学経営学部・道用教室の関係者が設営を行い、本番に備えた。子供たちに最先端の機器を使ったものづくりを体験してもらおうとの狙いで企画した。当日は、子供が描いた好きな絵をスキャナー、パソコンで読み込み、レーザーカッターで杉板製のコースターを作った。同教室の5人の学生が子供たちの指導に当たった。仕上げが早い子、遅い子と様々だが、学生たちや大人のサポートもあり、全員が「自分製のコースター」を喜んで持ち帰った。



自分のコースターでポーズ
「自分製のコースター」を喜んで持ち帰った。